コンセプト3

スマートにくらす

～都市基盤、生活、環境分野～

自然環境を大切にしながら、日々の“くらし”の中で、便利さや快適さが感じられるまちを目指します。

施策と方向性

施策1

快適な都市環境が整うまち

施策の方向性

1　快適で生活しやすい環境の整備
2　都市基盤の整備
3　持続可能な地域公共交通の構築

施策2

いつでもどこでもつながるスマートシティ

施策の方向性

1　市民・事業者のＩＣＴ活用促進
2　自治体のＤＸによる市民サービスの向上

施策3

自然を大切にし、次世代につなぐまち

施策の方向性

1　自然環境の保全
2　ごみの減量と資源化の促進

施策4

ゼロエミッションの地球にやさしいまち

施策の方向性

1　環境に配慮した取組の推進

施策 1

快適な都市環境が整うまち

誰もが安全・安心・快適に暮らすことができるよう、道路、駅前交通広場、公園、水道、下水道などの都市基盤施設の整備や維持保全、公共交通のサービス水準の維持、自然と調和した良好なまちなみの創出を図ります。

現状と課題

◆　誰もが安全かつ快適に暮らすことができるよう、バリアフリーや都市景観に配慮した都市基盤施設の整備を推進することが重要です。本市では、良好なまちなみの維持・向上を図るため、土地区画整理事業や道路・公園の整備等による都市環境の形成に取り組んできました。引き続き、土地区画整理事業の推進や道路・公園等のインフラ施設の適切な整備、医療・福祉・商業などの都市機能施設の誘導による生活しやすい快適なまちづくりを着実に推進していく必要があります。

◆　道路環境の安全性の向上と適切な維持保全が求められています。また、水道及び公共下水道等のインフラ施設は老朽化が進行しており、長寿命化対策等の着実な推進が喫緊の課題となっています。本市では、市民の安全・安心な生活を確保するため、道路や橋梁、上下水道施設等の維持補修、災害に強いインフラ施設の更新及び耐震化等に取り組んできました。引き続き、インフラ施設の計画的・効率的な更新等の対策を進めることが重要です。

◆　少子高齢化や人口減少の進行に伴い、全国的に公共交通サービスの需要縮小や経営の悪化、運転手不足の深刻化など、地域公共交通の維持・確保が厳しい状況にあります。本市では、利便性の高い公共交通の水準を維持するため、関係機関への要望活動やコミュニティバス「はむらん」の運行に関する検討・協議を重ねてきました。今後は、将来にわたって持続可能な公共交通の在り方について検討を進めることが求められています。



市民の声

〇羽村駅西口土地区画整理事業は、暮らし、治安、環境、防災など、あらゆることが関連する。座談会などで市民の声を聞いてほしい。
〇夜間の安全確保のため、暗い地域に街路灯が増えるとよい。
〇子育てしやすい街、皆が住みやすい街にするためには、バリアフリー・ユニバーサルデザイン化が重要だと思う。

施策の方向性

方向性1 快適で生活しやすい環境の整備

❶　市民生活の利便性の向上を図るため、市民の生活の拠点となる場所に、医療機関・福祉施設・商業施設などの日常生活に身近な施設が立地されるよう、計画的なまちづくりによる誘導を促進します。

❷　住宅地の街並みや商業地域、工業地域などの特性を踏まえた良好な都市環境を形成・保全できるよう、地区計画等による適切な土地利用の規制、誘導を図ります。

❸　良好な居住環境の形成を図るため、空き家等の適正な管理と利活用の促進及び市営住宅の適正な管理に取り組みます。

❹　公園・児童遊園が、緑豊かな憩いの場、遊びや運動の場として機能するよう、市民ニーズを踏まえた環境の充実を図ります。

❺　都市環境の保全及び公害の未然防止のため、騒音・振動・悪臭等の市内環境の状況を継続的に把握し、関係法令に基づく適正な指導を行います。

方向性2 都市基盤の整備

❶　土地区画整理事業では、都市計画道路及び駅前交通広場等の早期整備を目指し、権利者の負担軽減に配慮しながら、効率的かつ効果的に事業を推進します。

❷　誰もが安全かつ快適に市内を移動することができるよう、バリアフリー化を始め道路施設の点検、改修、改良工事等を計画的に実施し、道路環境の安全性の向上と適切な維持保全を図ります。

❸　水道施設の老朽化対策及び災害対策として、計画的な更新と管路の耐震化を一層推進します。

❹　下水道施設の機能を維持するため、計画的な更新と適切な維持管理に取り組みます。

❺　気候変動に伴う豪雨に対応するため、雨水浸透施設や雨水管の整備等、総合的な浸水対策を推進します。

方向性3 持続可能な地域公共交通の構築

❶　鉄道や地域公共交通のサービス水準の維持に向け、関係機関との連携を図ります。

❷　先行事例等の調査・研究を行い、将来にわたって持続可能で利便性の高い地域公共交通の実現に向けて検討を進めます。

施策 2

いつでもどこでもつながるスマートシティ

「人と人」や「人とサービス」が、いつでも、どこでもつながり、豊かで便利な生活が実現するよう、新たな技術を活用する環境の整備や、様々な社会経済活動のICT化などを促進します。

現状と課題

◆　デジタル技術の普及により、日常生活の様々な場面で時間や場所を選ばずに利用できる非対面・非接触のサービスが浸透しています。行政サービスにおいても、オンラインで完結する手続への期待がより一層高まっています。本市では、市ＬＩＮＥ公式アカウントの機能拡充や「書かない窓口」に関するシステムの導入、スマートフォン等の操作支援など、誰もがデジタル化の恩恵を享受できるよう、デジタル技術やＩＣＴを積極的に活用した市民の利便性の向上に取り組んできました。今後は、各種手続のオンライン化の更なる推進を図ることや、市内事業者のデジタル化を支援するなど、スマートで利便性の高い行政サービスの提供を目指すことが求められています。

◆　社会全体の急速なデジタル化の進展に伴い、新たな時代に順応した行政サービスの提供と健全な財政運営を実現するため、「羽村市ＤＸ推進基本方針」を策定しました。本市では、この基本方針に基づき、ＲＰＡ※1やＡＩ－ＯＣＲ※2等のデジタル技術を導入し、市民サービスの向上と事務の効率化を両立する基盤づくりに取り組んできました。今後は、東京都等との連携を更に強化し、先端技術を全庁的な業務プロセスに浸透させることで行政経営の最適化を図り、創造的で付加価値の高い市民サービスの提供を実現していくことが求められます。



市民の声

〇防犯の情報について LINE などで情報提供があるとよい。
〇オンラインで授業を受けられる環境を整備してほしい。
〇羽村市が暮らしやすいまちであるために、市全体で利用できるフリーWi-Fi が街中に整備されるとよい。

※1　RPA…人が行うパソコン上の作業をコンピューターによって自動化する仕組みのこと。
※2　AI－OCR…AI 技術を用いて、手書き文字や印字された書類の画像から高精度にテキストデータ化する技術のこと。

施策の方向性

方向性1　市民・事業者のICT活用促進

❶　市内経済活動の効率化や活性化に向け、市内事業者におけるキャッシュレス決済の導入や、デジタル技術を活用した情報発信を支援します。
❷　医療機関や介護事業所等の業務の効率化を支援するため、デジタル技術の活用を促進します。
❸　公共施設やイベントで、誰もが円滑にオンライン接続ができるよう、Wi-Fi 環境の充実を図ります。
❹　誰もがデジタル化の恩恵を享受できるよう、スマートフォン等の基本的な操作やアプリケーション等の活用に関する支援を、関係団体等と連携して推進します。

方向性2　自治体の DX（デジタルトランスフォーメーション）による市民サービスの向上

❶　市民の利便性の向上を図るため、行政手続のオンライン化を推進します。
❷　デジタル技術を活用した、情報アクセシビリティ※を確保するため、市公式サイトやＬＩＮＥを始めとする情報発信ツールの機能の拡充を図ります。
❸　質の高い市民サービスの提供及び事務の効率化を推進するため、先端的なデジタル技術の活用を推進します。
❹　DX を効率的かつ効果的に推進するため、国や東京都、民間事業者等と連携し、専門的な知見の活用を図ります。

※　情報アクセシビリティ…年齢や障害の有無にかかわらず、誰でも必要な情報に簡単にたどり着け、利用できること。

施策 3

自然を大切にし、次世代につなぐまち

市内のみどりや水・大気の保全、生物多様性の確保などに取り組むことで、限られた資源を大切にし、次世代への継承を図ります。

また、3R（リデュース・リユース・リサイクル）などの環境配慮行動を実践し、ごみの減量と排出の抑制を推進します。

現状と課題

◆　２０３０年を目標年次とするＳＤＧｓの達成に向け、自然環境を保全するための取組の重要性が高まっています。本市では、自然環境を守るための保存樹林地の維持や特定外来生物の防除、良好な都市環境を保全するための継続的な環境の把握に取り組んできました。今後も生物多様性の確保と公害の未然防止を一体的に推進するとともに、多世代が自然の尊さを学ぶ体験機会の充実を図り、本市のシンボルである水や豊かな自然を次世代へ確実に継承していく必要があります。あわせて、人や動植物に優しい良好な都市環境を保全し続けるための取組が求められます。

◆　市政世論調査では、市の「ごみの減量（３Ｒの推進）」や「循環型社会の構築」への取組に対する満足度は高い状況にあります。しかし、地球温暖化が進行する中、３Ｒの更なる推進が求められています。本市では、分別行動を促進するため、ＬＩＮＥを活用してＡＩが分別方法等を案内する「はむらごみナビ」を導入するなど、市民の利便性の向上を図ってきました。引き続き、ごみの減量に向けた周知・啓発を推進するとともに、市民や事業者の３Ｒ意識の向上及び限りある資源の有効活用を図り、環境負荷の少ない資源循環型社会への転換を推進していく必要があります。



市民の声

〇子供が実体験できる機会を充実させてほしい。
〇自然環境保護のためのボランティア活動やごみ拾い活動により心地良い環境にしたい。
〇温暖化が進んでいるため、ごみの分別などを通じて、自然を壊さないような取組が重要だと思う。

施策の方向性

方向性1　自然環境の保全

❶　自然を大切にする心を育むことができるよう、自然環境について学び、体験する機会を提供します。

❷　まちなかの緑地を保全するため、都市計画緑地の適正管理に取り組むとともに、私有地における緑地の維持・保全に向けて支援します。

❸　生物多様性を確保するため、多様な生物が生息できる環境の維持と東京都と連携した特定外来生物等の防除を推進します。

❹　人や動植物に優しい自然環境の保全及び公害の未然防止のため、大気・水質・土壌等の市内環境の状況を継続的に把握し、関係法令に基づく適正な指導を行います。

方向性2　ごみの減量と資源化の促進

❶　ごみの減量と資源循環型社会の構築を図るため、ごみの排出抑制や分別の徹底に向けた周知・啓発活動を展開します。

❷　適正かつ安定的な廃棄物処理を継続するため、リサイクルセンター等の計画的な修繕による機能維持と、広域的な共同処理の可能性を含めた将来的な施設の在り方の検討を進めます。

施策 4

ゼロエミッションの地球にやさしいまち

再生可能エネルギーを利用したエネルギーの地産地消を推進し、二酸化炭素の排出を削減するなど、脱炭素社会の実現を目指す、地球にやさしいまちづくりを推進します。

現状と課題

◆　２０５０年のカーボンニュートラル※1 という世界的な目標達成に向け、行政のみならず地域全体でグリーントランスフォーメーション（ＧＸ）※2 を推進していく必要があります。同時に、気温の上昇や大雨などの気候変動への対応も急務となっています。本市では、脱炭素社会の実現を目指し、市民・事業者・市が一体となって連携・協力しながら、「2050 年二酸化炭素排出実質ゼロ」の実現を目指す「羽村市ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。また、公共施設への太陽光発電設備の導入やＡＺＥＭＳプロジェクト※3 による再生可能エネルギーの活用、市民の省エネルギー化の取組を促進する「環境配慮事業助成制度」、ペットボトルの水平リサイクル※4 である「ボトル to ボトル」等の取組を推進してきました。引き続き、公共施設の低炭素化を推進しつつ、市民や事業者による主体的な省エネルギー行動等を支援し、地域全体で地球温暖化対策と気候変動への適応等を一体的に推進していくことが求められます。



市民の声

〇地球温暖化を防止し、将来も植物が多い街であるとよい。
〇SDGｓに基づき、リサイクルなど、自分たちができることを考え、行動することが重要だと思う。
〇地球温暖化対策について、市民レベルでの取組を支援してほしい。

※1 カーボンニュートラル…温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。
※2 グリーントランスフォーメーション…化石燃料中心の経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させつつ、エネルギーの安定供給・経済成長・排出削減の同時実現を目指すこと。
※3 AZEMSプロジェクト…市庁舎屋上の太陽光発電を利用して公用車等を運行させる交通システムのこと
※4 水平リサイクル…回収した製品や素材を、同等程度の製品や素材の原料としてリサイクルし再製品化すること

施策の方向性

方向性1　環境に配慮した取組の推進

❶　地球温暖化を防止するため、市民や事業者の省エネルギー行動等を促すとともに、市民の主体的な省エネルギー活動を支援し、カーボンニュートラルの実現につなげます。

❷　温室効果ガスの排出削減と環境負荷の低減を図るため、公共施設への再生可能エネルギー設備の導入や省エネ機器の導入などによる低炭素化を推進します。

❸　２０５０年のカーボンニュートラル実現に向け、各種計画等に基づく施策や数値目標を市民・事業者と共有し、気運の醸成を図ります。

❹　気温の上昇に伴う熱中症のリスクから市民を守るため、熱中症予防に関する知識の普及啓発と環境整備を推進します。

SDGsの取組



関連する主な計画

◇第二次羽村市環境とみどりの基本計画
◇羽村市地球温暖化対策地域推進計画（区域施策編）
◇羽村市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）
◇羽村市一般廃棄物処理基本計画
◇第ＩＩ期羽村市分別収集計画
◇羽村市都市計画マスタープラン
◇羽村駅西口土地区画整理事業　事業計画
◇羽村市道路整備計画
◇羽村市橋梁長寿命化修繕計画
◇第二次羽村市水道ビジョン
◇羽村市下水道総合計画
◇羽村市雨水管理総合計画
◇羽村市ＤＸ推進基本方針

コンセプト4

にぎわいを創る

～産業･観光分野～

市内経済活動の基盤強化や市内産業の活性化を図り、羽村市を訪れる人との交流の輪を広げることで、にぎわいがあふれるまちを目指します。

施策と方向性

施策1

先端技術産業が
集まるまち

施策の方向性

1　羽村市への進出の支援
2　企業間などのつながりの強化
3　新たなチャレンジの支援

施策2

市内産業が元気に
活動するまち

施策の方向性

1　継続的な操業や新規創業・就農の支援
2　産業分野間の連携の強化
3　人材の確保や育成の支援

施策3

人が集まり、
交流を生むまち

施策の方向性

1　羽村市の魅力の向上
2　来訪者とのつながりの創出
3　羽村市の魅力の発信

施策 1 先端技術産業が集まるまち

産業振興と都市計画の両面から、先端技術産業を始めとする企業誘致や、新たな産業の創出を図るとともに、産業集積による開発拠点の形成と市内既存産業との連携を促進していくことに取り組みます。

現状と課題

◆　ロシアによるウクライナ侵略や中東情勢の不安定化、米中間の競争激化などを背景に、国際的な供給網を取り巻く不確実性が高まっています。こうした状況を踏まえ、企業においては特定地域への過度な依存の低減やサプライチェーンの強靭化（きょうじんか）に向けた取組が進められており、生産・調達体制の見直しなどの動きがみられます。市への問合せや企業活動支援員の活動等を通じても、市内における工場や事業用地の取得など、様々な立地ニーズがみられます。本市では、都市基盤の整備や立地奨励の制度により企業誘致を促進してきており、その結果、製造業や医療分野など、多彩な先端技術関連企業の集積が進んでいるほか、農業分野でも、最先端の技術を取り入れる企業が参入しています。これまでの実績を生かしつつ、先端技術産業の特徴や強みを市内外に積極的に発信するとともに、企業が安定して活動を続けられる環境の維持や未利用地の情報収集を更に進め、変化の激しいビジネス環境にも柔軟に対応できる魅力的な立地環境の整備に取り組んでいく必要があります。

◆　世界規模の市場競争に打ち勝つための「企業間の連携」や、デジタル技術の急速な普及に伴う「オープンイノベーション※」の重要性がこれまで以上に高まっています。本市では、「地域産業振興懇談会」への参加、異業種交流会の開催等を通じて企業間のネットワークづくりを支援してきました。今後は、企業間のマッチングや異業種間のコラボレーションを更に活発にし、新たな気付きや商品開発が生まれるよう、市内産業全体の持続的な発展を支える強固な体制づくりが求められます。

※ オープンイノベーション…組織の枠を越えて技術やアイデアを融合させること。

◆　AI、IoT※1 等の先端技術の急速な進展に伴い、これまでのビジネスモデルの転換や新しい分野への事業展開の必要性が高まっています。本市では、新たな創業や新事業への支援に向けて、創業支援補助金や「ｉサロン※2」の活用を進めてきました。地域の活力を維持・発展させるためには、これまでの実績をベースに、最新の市場動向や先端技術を取り入れた企業のチャレンジを支援し、地域の活力を生み出す新しいアイデアが形になる創造的な環境を整えていくことが求められます。



市民の声

〇地域の企業と連携して羽村が良くなるものを創り出してほしい。
〇工場を発展させ、景気を良くしてほしい。
〇小さな工場をどんどん増やしていくと良いと思う。

※1 IoT…家電や機械、センサーなど様々なモノをインターネットにつなぎ、情報を収集・活用する技術のこと。
※2 ｉサロン…産業福祉センター内に設置しているスペースのことで、創業のための情報収集や情報発信のほか、作業、ミーティングなど、創業をお考えの方や創業後間もない方が利用できる。

施策の方向性

方向性1 羽村市への進出の支援

❶ 企業が操業しやすい環境を整えるため、市内への進出を希望する企業等のニーズに合わせ、関係機関と連携したきめ細やかな支援や情報提供を行います。あわせて、市内外へ本市産業の魅力を積極的に発信するとともに、限られた工業用地等に関する情報提供及び計画的なまちづくりによる誘導を促進します。

❷ 企業が操業しやすい良好な環境を維持し、先端技術産業の研究・開発拠点が更に形成されるよう、地区計画等による適切な土地利用の規制、誘導を図ります。

方向性2 企業間などのつながりの強化

❶ 企業相互の交流の場や業種・分野を超えた企業間の連携などが促進されるよう、異業種間のコラボレーションやマッチング機会を創出し、企業の付加価値を高める取組を支援します。

❷ 市内産業全体の持続的な発展を後押しするため、デジタル技術の活用や経営基盤強化等に対する支援を行うとともに、企業間の情報共有やマッチングの機会を創出します。

方向性3 新たなチャレンジの支援

❶ 地域の活力を生み出すため、先端技術を取り入れたビジネスの変革や新分野への挑戦を後押しするとともに、地域に密着した創意あふれる先進的な事業展開を支援します。

施策2　市内産業が元気に活動するまち

羽村市の経済活動を支える工業・商業・農業・観光業が、それぞれの事業者の個性を大切にしながら、相乗的に発展していけるよう、経営基盤の強化と次世代への継承を支援し、市内産業の魅力向上に取り組みます。

現状と課題

◆　物価高騰による経営コストの上昇や経営者の高齢化に伴う事業承継、デジタル化への対応が、中小企業の経営課題として顕著になっています。本市では、こうした課題に対応するため、企業活動支援員による個別訪問や企業支援セミナー、各種助成金等により、市内企業の課題に対応した支援を実施してきました。一方、農業分野では、相続等による農地の減少や農業従事者の高齢化に伴う営農環境の維持が課題となっています。本市では、生産緑地制度の有効活用や農業体験機会の提供等を通じて、都市農業の維持と市民の農業に対する理解を醸成する取組を進めています。今後は、これまでの支援メニューを社会情勢に合わせて柔軟に最適化しつつ、事業者が将来にわたって安心して活動を続けられる経営環境を整える必要があります。

◆　消費者の間では、環境に配慮した商品を選んだり、地元で生産された安心な食材を好んだりするなど、「サステナビリティ※志向」や「地域への関心」が高まっています。本市では、こうした地元のこだわりや魅力を直接届ける場として、羽村市農産物直売所を設けるとともに、「はむら市民と産業のまつり」等のイベントを開催し、工業・商業・農業・観光業が一体となった「にぎわい」を創出してきました。地域経済の更なる活性化に向けて、こうしたイベントで培ったノウハウを生かし、地元産品の消費（地産地消）の拡大や新たな特産品開発、事業者と市民・消費者が互いに理解を深め、産業の横断的な取組を今の時代に合わせて進化させることが求められます。

※　サステナビリティ…「持続可能性」のことで、環境・経済・社会がバランスを保ち、将来にわたって良好な状態を維持することを目指すこと。

◆　少子高齢化の進行に伴い、企業における働き手不足が深刻さを増しています。本市では、産学官連携による若者の就業意識の醸成や人材育成支援に取り組んできました。今後は、持続可能な地域経済を実現するため、外国人人材の受入れ支援を含めた企業の採用力向上や社会人の学び直し（リスキリング）の機会の提供を強化するとともに、「羽村で働くこと」の魅力や誇りを市内外に発信し、地域全体で次代を担う人材の育成、呼び込み、定着させる仕組みの構築が求められます。



市民の声

〇羽村で作った物を使用した名産品の製造、ビールやお酒を使ったお菓子など、若い世代にも知名度が上がる工夫をしてほしい。
〇農業従事者が減少している。農業の研修や就農支援を強化して、農地を保全し活用していけるようにしてほしい。
〇求職活動の支援体制を強化してほしい。

施策の方向性

方向性1 継続的な操業や新規創業・就農の支援

❶ 社会情勢の変化に対応し、企業が市内で安定的に事業を継続できるよう、経営基盤の強化やデジタル技術の推進、円滑な事業承継に向けた伴走型支援を強化します。

❷ 都市農業の経営の安定を図るため、生産緑地・特定生産緑地への指定手続等を円滑に進め、農地の維持・管理を支援し、良好な営農環境を整えます。

❸ 持続可能な農業環境を整えるため、市内農産物の活用や農業体験等の機会を通じて、市民や消費者の都市農業に対する理解と関心を高めます。

❹ 地域経済に活力を生み出す新しいアイデアが形になる環境を構築するため、創業や新規就農、新分野への進出など、新たな事業展開を目指す挑戦を支援します。

方向性2 産業分野間の連携の強化

❶ 地域経済を更に活性化させるため、工業・商業・農業・観光業等の各産業分野が連携した、新たな特産品開発やにぎわい創出の取組を推進します。

❷ 市民や市内で働く人が、地域の事業者や農業者の活動への愛着と理解を深めることで、地域全体で市内産業を応援する機運を醸成するため、事業者と消費者が直接触れ合える交流機会を拡充するとともに、市内での積極的な消費・購買行動を促進します。

方向性3 人材の確保や育成の支援

❶ 深刻化する労働力不足に対応するため、外国人を含めた多様な人材の確保や育成、企業の採用力強化、就業者のリスキリングの機会提供について、関係機関と連携した支援を推進します。

❷ 次代の工業、商業、農業などを支える担い手を確保できるよう、技術の継承や後継者育成を支援します。

❸ 子供や若者が羽村市の産業の魅力に触れ、将来の活躍の場として選択できるよう、市内企業での就業体験活動や職場見学など、学校や商工会等と連携し、市内への就業を促す取組を強化します。

施策 3 人が集まり、交流を生むまち

市の魅力発信や、多くの人が集い、交流が生まれる駅周辺などの拠点の整備により、羽村市に関わる人との交流を生み、まちに活気やにぎわいを創ることに取り組みます。

現状と課題

◆　人口減少に伴い、移住・定住だけでなく、観光やビジネスにおいても「選ばれる地域」になるための都市間の取組が活発化しています。人々のライフスタイルが多様化する中で、それぞれの地域の魅力が見定められる時代となっています。本市では、地域との連携による居場所づくり事業である「ポットラックプロジェクト※」や動物を身近に感じる、ぬくもりある動物公園づくり等、市民満足度の向上や来訪者の増加に向けた取組を推進してきました。今後は、羽村ならではの豊かな自然や動物公園、伝統文化などの地域資源を最大限に生かし、誰もが日常的に集える、心地よい空間を創出するなど、羽村の魅力を更に高めることで、多くの人から「訪れたい、関わりたい」と「選ばれる地域」を目指す必要があります。

◆　新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少した訪日外国人旅行者数が回復する中、国においては、地方誘客の促進や観光消費額の拡大、地域資源を活用した高付加価値な観光コンテンツの創出を重視した観光施策が進められています。本市では、観光協会と連携して、近隣自治体と結ぶ広域的な観光ルートの開発や観光ガイドの養成により、来訪者と地域との交流を深める取組を進めてきました。今後は、一度訪れた人が再び足を運んでくれる「リピーター」を確保するため、市内で買物や食事を手軽に楽しめる環境を整備するとともに、羽村市との継続的なつながりを創出し、まちに活気と新たな交流の輪を広げていくことが求められます。

※　ポットラックプロジェクト…持ち寄るという意味の「ポットラック」をテーマに、公園を、地域の方自身が、「つかう」「つくる」「つなぐ」ことで、様々な世代、様々に暮らす方々にとっての居場所づくり事業のこと。

◆　多くの企業や自治体において、公式ＳＮＳや動画共有サービスなどのデジタル媒体を戦略的に活用し、その時々の見どころを逃さずに届ける手法が主流となっています。本市では、市民記者による地域の魅力発信やＳＮＳの積極的な活用により、子育て世代を対象に情報発信を強化してきました。これまで取り組んできた戦略的なプロモーションにより、「シティプロモーションアワード 2023」で金賞を受賞するなど、一定の評価を得てきました。これらの取組を地域経済の活性化や来訪者の増加につなげていくためには、ターゲットを明確にした戦略的なプロモーションの推進が不可欠です。デジタル媒体の即時性や拡散性を最大限に生かし、地域の情報を多様な主体と連携して効果的に発信し続けることで、市の認知度を高め、将来的な移住・定住につなげていくことが求められます。



市民の声

〇立川駅など人通りの多い駅に、羽村駅周辺の魅力をアピールするポスターを掲示してほしい。
〇羽村市にしかない特徴や魅力を創出・発信してほしい。
〇羽村の堰（せき）などの観光資源を有効活用してほしい。

施策の方向性

方向性1 羽村市の魅力の向上

❶　「選ばれる地域」を目指し、市民満足度の向上と来訪者の増加につなげるため、多摩川や羽村堰などの豊かな自然、動物公園、伝統文化などの地域資源を最大限に生かすとともに、地域の新たな魅力の発掘に取り組みます。あわせて、多様な主体と連携して、四季を通じて誰もが集い、心地よく楽しめる空間や交流機会を創出します。

❷　郷土愛の醸成やリピーターの確保を図るため、様々なイベントの魅力を市民との協働で向上させるとともに、伝統文化が次世代へ確実に継承・伝承されるよう、関係機関と連携した取組を推進します。

❸　まちのにぎわいを創出するため、医療・福祉・商業などの日常生活に身近な施設が立地されるよう、計画的なまちづくりによる誘導や駅前交通広場などの都市基盤の整備により、交流の拠点となる施設の整備・誘導を推進します。

方向性2 来訪者とのつながりの創出

❶　まちに活気と新たな交流の輪を広げるため、圏域市町村を始めとする近隣市町との連携による広域的な観光ルートの開発や体験型観光メニューを拡充し、来訪者が羽村の歴史や魅力に手軽に触れることができ、継続的な来訪と交流が生まれる仕組みを構築します。

❷　来訪者と市民との継続的な交流を深めるため、観光ボランティアガイドの活動を支援するとともに、若い世代や新たな担い手への技術・知識の継承と育成を支援します。

方向性3 羽村市の魅力の発信

❶ 羽村市の認知度を高め、にぎわいあふれるまちを実現するため、ＳＮＳ等のデジタル媒体や動画を戦略的に活用し、市民が市内の魅力を楽しみ参加する「観光の地産地消」を始め、羽村市の魅力を市内外へ広く届ける取組を推進します。

❷ 羽村市の魅力を多様な視点から発信するため、市民や来訪者、事業者の主体的な情報発信を後押しするとともに、多様な主体と連携したプロモーションを展開します。

❸ 暮らしやすさや子育てのしやすさといった羽村市の魅力を市内外へ効果的に発信し続けることで、20 代・30 代の子育て世代を中心とした「移住・定住」につながる取組を推進します。

SDGsの取組



関連する計画

◇第二次羽村市産業振興計画
◇羽村市都市計画マスタープラン
◇羽村市創業支援等事業計画
◇第二次羽村市生涯学習基本計画